

TIAOZHAN RIYU KOUYU

主 编 赵 平
副主编 李 玲 高桥博美

高级篇

挑战 日本語会話への挑戦 日语口语



会 话
解 说
练 习
翻 译

中国科学技术大学出版社

高级篇

日本語会話への挑戦

H369.9
120D
:3

挑战日语口语

主 编 赵 平 副主编 李 玲 高桥博美



会 话

解 说

练 习

翻 译

中国科学技术大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

挑战日语口语·高级篇/赵平主编. —合肥:中国科学技术大学出版社,2006.6
ISBN 7-312-01903-X

I. 挑… II. 赵… III. 日语—口语 IV. H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2006)第 039044 号

挑战日语口语·高级篇 赵平主编

中国科学技术大学出版社出版发行

(安徽省合肥市金寨路 96 号,邮编:230026)

电话:0551-3602905 传真:0551-3602897

网址:<http://www.press.ustc.edu.cn>)

合肥学苑印务有限公司印刷

全国新华书店经销

开本:787mm×960mm 1/16 印张:16.5+2.25(练习答案) 字数:326 千

2006 年 6 月第 1 版 2006 年 6 月第 1 次印刷

印数:1—3000 册

ISBN 7-312-01903-X/H·69

定价:33.00 元(含《练习答案》、配套光盘)

鸣 谢

本书在收集资料和编写创作过程中,得到了春木和子、森園良樹、山内茂、大橋定順、永田聡、前田晃一、庄垣内淳子、伊藤光子、松田加奈、笕有志、益田英雄、新冈京子等日本友人的大力协助,并得洛阳外国语学院教授胡振平先生、日本神户学院大学教授中村宏先生赐序,在此深表感谢!

编写·录音人员

主 编 赵 平

副主编 李 玲 高桥博美

执笔者 赵 平(淮海工学院)

李 玲(日本同志社大学, 神戸学院大学)

张利平(成都理工大学)

颜 欢(重庆大学)

赵康英(江苏大学)

熊玉娟(淮安生物工程高等职业学校)

王 萍(重庆大学)

吴昌萍(南京农业大学)

吴 琴(淮海工学院)

高桥博美(日本神戸学院大学)

新井菜摘子(淮海工学院外籍教师)

浦田千晶(苏州大学外籍教师)

古贺胜行(日本专业演员, 配音演员)

伊藤茂(日本神戸学院大学)

阿部治平(日本大阪外国语学院, 淮海工学院外籍教师)

福井耕一(日本神戸市中国文学研究员)

配套录音朗读者

浦田千晶

阿部治平

古贺胜行

赵平

朱梦船(日本神户大学附属明石中学校学生)

赵含嫣(日本藤江小学校,连云港师专一附小学生)

赵脩羽(日本藤江小学校,连云港师专一附小学生)

新井菜摘子

三友阳子(中央民族大学)

龟屋明子(日本冲绳国际大学)

冈田直子(日本龙谷大学)

牛谷文子(日本株式会社トライ)

中上彻也(浙江万里学院,日本神户市外国语大学)

李玲

多罗尾美智代(日本产劳综合研究所)

橘雄三(淮海工学院外籍教师)

橘和子(日本家庭主妇)

熊玉娟

前园忠一(江苏大学外籍教师)

伊藤光子(日本庵建设事务所)

小林荣三(淮海工学院外籍教师)

李爱华(淮海工学院)

插图 浦田千晶(苏州大学)

录音/剪辑 赵平

序

胡振平

中国日语教学研究会前会长

洛阳外国语学院教授

今年初,赵平和李玲的大作《日语文学作品读解与翻译》放在案头,每翻看一段,可谓开卷有益,耳目一新的感觉油然而生。中国人赵平用日语写的小说,并且将之用作日语教材,这在中国可以说是破天荒。这些文学作品读起来不仅内容亲切,而且文字纯正流畅,并不亚于读日本文学家的作品!

正读得津津有味,赵平主编的又一部日语教材《挑战日语口语·初级篇》又出版了。所有的课文都是他亲自撰写,无一转引照搬,这又是一个破天荒。口语体日语所具有的特点,诸如音变、约音、倒置、省略……等等,无不体现得淋漓尽致,绝对不是那种“规范书面语”的口语化。此外,题材丰富多彩且幽默诙谐,学生可以在娱乐中学习日语,轻松而愉快。

许多「落ち」(包袱)还来不及打开,赵平又寄来了他主编的第四部作品《挑战日语口语·高级篇》的书稿(《挑战日语口语·中级篇》已出版),并嘱我作序,这是一桩快事,我很乐意地应允了。

我与赵平相识是在学术研讨会上。听他侃侃而谈地发言,共同切磋琢磨,感觉这位年轻人学术上有造诣,有潜力。他一口地道的日本话听起来很舒服。看了他的作品,间接地从日本人的序里知道,他原在日本读的是法学博士,在学期间就从事文学创作,并且有作品发表。回国后才从事日语教育,走过了一条从法学到文学又到日语教育的曲折道路。岁月锻炼了赵平。在淮海工学院这个日语教育历史不长、极不显眼的地方,在他的带领下,一支精锐部队异军突起,特色鲜明、独树一帜地编起了日语口语教材,这在中国的日语教育界是一件值得高兴的大好事!标志着国内的日语教材编写已经进入了一个崭新的历史阶段。

赵平教授,赵平博士有今天的表现那不是一天的功夫和一时的冲劲。如此多产,一年多出版三部有份量的书也不是他一个人就可以做到的。在他心怀若谷、能容百川的胸襟下,群贤毕至,少长咸集,连日本的文学家、艺术家、相声大师、专业演员、配音演员都参与了进来,中日两国先后有近60人投入了这项巨

大的编写、录音工程,这也是国内一般日语教材编制中少见的现象。

最后,更加令人感动的是,赵平如此殚精竭虑、不顾一切地要尽快完成这一系列教材,用他自己的话说是“这套书的出版是我扼住癌症咽喉的一个宣言。”字字铿锵有力,催人泪下!

愿此书尽快出版,祝赵平身体早日康复!

匆匆数笔,辞不达意,是为序。

序

中村宏
神戸学院大学教授
法学博士

最初に本書について申し上げる。一読された方は、この構成において従来の日本語会話教科書とは著しく異なっていることにお気づきになるであろう。日常の俗語をふんだんに交えた、ときには冗談がまじわる会話。著者らの体験を踏まえた正確で緻密を極めた解説。本文に依拠しながらもなお高度な日本語会話を目指した練習問題。それに愉快で独創的な小品。それが文法事項にいたずらにとらわれることなく語彙論や方言論、音韻論など日本語学全般の成果を踏まえている。これらはすべてより美しい日本語を中国の同学の人々に学んで欲しいという意図から出たもので実に用意周到、配慮が隅々まで光っているというべきである。

これを主編した人物こそ、趙平博士である。私は偶々趙平博士の日本留学時代の指導教官であったという故のみを以て、博士のまた又の新著の「序文」を書かせて頂けるといふ生涯の光栄を賜ることになった。とはいえ、氏は来日当時既に碩学の域に近付いて居られ、何の指導も必要とされていなかったから、それは全く名目的なものであった。今更、おまえなどに、博士について何を聞くことがあろうか、と読者諸子にはお叱りを受けても返す言葉がない。確かに貴国で、博士の、研究業績、実り豊かな教育実践を通して、その筋で知らぬ方は、そうそうは居られぬものとは思ふ。博士が、奉職されておられる准海工学院において、最も学生に尊敬され慕われている教授であることも、上空遙か風に乗って、折々に私の大学にまで伝わってくる。

ところで、今日まで、多くの大学人にとって、研究と教育の両立は、難問であり続けてきた。日本の場合、戦前は、日本ではこの戦前という言葉は第二次大戦前を指しているが、大学は、旧東京帝国大学など数が限られ、学生もまた「一を聞いて十を知る」選りすぐられた秀才ぞろいであった。そうした当時でさえも、研究と教育の両立の問題は多少あったであろうが、教授達は、自分の研究に裏付けられた高度の授業をすることができたろうと思慮される

のである。教壇で、自分が執筆中の論文を読み上げるとか、自説を滔々と弁ずることも可能であったろう。私が学生するとき、四十年ほど前になるが、ある中国文学の高名な教授はその退官記念講演で、「私の学生の頃は、あたふたと教室に入ってこられた先生が、今読んでいる漢文のここの所の意味がもうひとつ分からぬ、とおっしゃる。そこで、学生たちは、図書館に走ってあれこれの辞書やら何やらを借り出してきて、みんな、辞書と首引きでその箇所の意味を考える、それが授業でした。」そんな様なお話をされていた。その教授の学生の頃だから旧帝大の時代である。学生たちは、授業を通して、研究の最先端に触れ、またその末端を担ったわけである。しかし、戦後になると、新制大学が雨後の竹の子さながらに増加し、さらに、経済成長と人口増のなかで、私立大学が林立し、大学は一変していったのである。今日、多くの大学は授業料を払えば入れるところと化し、教育は研究の最先端とは程遠いところにある形容しがたい何かになった。

貴国、中国も、この点で、日本と同様な事情が多少現れ始めていると聞いている。博士が、大学で学ばれた頃は、少数精鋭の時代であったが、その後貴国の発展とともに学生数は飛躍的に増加し、日本の言葉でいえば、マスプロ教育の段階に差し掛っているように聞く。とはいえ、まだまだ、日本でそうであるように、大学教員の評価は、基本的に研究業績でなされており、教育のウエイトは低いと聞いている。

博士は、日本での十有余年、寝食を忘れ日本語学、日本文学の研鑽を積まれた。言うまでもないことであるが、幾多の珠玉の論文をものされた。世に埋もれようもなく引く手数多であったのであるが、博士がそのたびに私にも静かに語る言葉は一つであった。「私は、中国に帰って、中国の学生に教えたいです。」そこには、逆境にあっても変わる事のない博士の祖国と教育への限りない思いが溢れていた。博士にとって、研究は飽くまで教育の為のものであった。その評価は各様であろうが、日本の大学は、恐らくそれはヨーロッパから来たものであろうが、伝統的にはアカデミズムの砦で、象牙の塔であり、研究は研究の為のものであって教育の為のものではなかった。私は、博士の教育への情熱に、己れを省みさせられ、心を痛く打たれずにはいらなかった。私にとっては、教育はしばしば重荷であり糊口を凌ぐ手段であったから。

それにしれも、小咄を素材として教科書をつくる、このような閃きは凡人の頭に浮かぶものではなからう。まして実際につくるといったことは到底凡庸な者の為せる業ではない。如何な博士といえどもこの独創的な発想は、

教育へのあの熱い思いなくしては生まれなかったであろう。そこには博士の学生たちへの限らない暖かさが感じられる。とはいえ、心情のみでは優れたものは生まれない。そこには、確かな知識と技術と人が求められる。博士の日本語と日本文化についての造詣と作家としての才能があってこそ初めて可能となったものである。博士は、夜空に星の如き文学作品を、しかも日本語で、年々歳々世に出されてきた。天の配慮であろうか、優れた人は優れた人々に巡り会う。博士は実によき共同執筆者に恵まれた。この人々なくしては、これほどのものは完成し得なかったであろう。

「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」である。海のこちらから見れば、誠に恐るべしでもある。このような、神業とでも言おうか、見事に工夫されたテキストを片手に、時に笑いこけながら、日本語、日本文化を寸暇を惜しんで学ぶ人たちは、我が社会の裏の裏までを悉く知る高い能力をいつしか自ずと身につけてしまうのではないだろうか。

序

中村宏

神戸学院大学教授

法学博士

首先说说您手里的这本书。想必翻阅过一遍的读者已经注意到了,这本书的结构与其他的日语会话教科书有着显著的不同:充满幽默、夹杂着大量俗语的对话,根据作者的经历所进行的正确而极尽细致的解说,对照原文却又以高级日语会话为目标所编写的练习题,此外还有独创的活泼小品。所有这些,丝毫没有循规蹈矩于文法条例,同时又全面运用了词汇学、方言学、音韵学等日语语言学的成果。所有这些都是为了想让中国的日语同好们学到更为精湛的日语。可以说,在这本书的每一个段落里,都隐藏着作者极为周到的考虑和安排。

这本教材的主编正是赵平博士。赵平留学日本时,我碰巧是他的指导教师,此次得以为他的又一部新书作序,令我感到此生荣幸。其实,赵平来日本留学时,学识已是相当渊博,完全不需要任何指导,我这个指导教师完全是个挂名。现在,即便被各位读者斥责说:“关于赵平博士,难道我们还需要来问你吗?”我也无以作答。的确,在贵国的日语教育圈中,通过赵平的研究业绩和极为丰富的教学活动,大家都知道了赵平博士。赵平博士在他所任职的淮海工学院是最受尊敬和欢迎的教授这一消息,也不断随风飘过蓝天,远传到了我们的大学。

迄今为止,对许多大学来说,如何兼顾研究和教育,是一个一直没能解决的难题。战前——日语中的“战前”意指第二次大战前——的日本只有旧东京帝国大学等数量有限的大学,学生全都经过精挑细选,头脑灵活,闻一知十。虽然当时也多少存在着如何兼顾教育和研究的问题,不过我想当时的教授们能够以自己的研究为根据进行高水平的讲授,也可能在讲台上高声朗读自己写作中的论文、滔滔不绝地阐述自己的见解。我学生时代的40多年前,曾有一位研究中国文学的著名教授在其退休纪念演讲中如此说道:“我当学生那会儿,老师匆匆忙忙赶到教室,一句‘这篇古文的这个地方我还不太明白’,学生们便跑去图书馆,借来各种各样的辞典书籍,东查西找,集思广议。这,就是上课。”那位教授当学生的时候正是“旧帝大”时代。学生们通过上课,既接触到了研究的最前

沿,又担负起了研究中最基本的工作。然而战后新体制的大学如雨后春笋。随着经济发展和人口增长,私立大学也纷纷出现,大学彻底改观,许多大学变成了只要交了学费就能进去的地方,教育远远地落到尖端研究的背后,到了难以言说的地步。

我听说,与此相同的情形也开始在贵国出现。博士在大学学习的年代,讲究少而精。此后,伴随着贵国的发展,学生数量急速增加,套用日本人的说法,就是进入了“普及性教育”的阶段。尽管如此,对大学教员的评价,据悉仍与日本相同,基本上是按照研究业绩定优劣,教学的比重小。

赵平博士在日本的十多年里,废寝忘食地钻研日本的语学和日本文学,不用说,也发表过许多杰出的论文。世人当然不会允许他自甘寂寞,然而每每接到邀请,他都会平静如常地对我说一句话:“我要回中国,教中国的学子。”这句话里,充满了博士对祖国和教育的无限向往,这种向往即便在逆境中也未曾改变。对于博士来说,研究始终为教育而存在。关于这一点有各种各样的看法。日本的大学也许受到欧洲的影响,关在传统的学院式堡垒和象牙之塔中,研究只是为了研究而存在,与教育无关。博士对教育的热情使我反省自身,惭愧之极。因为对我来说,教育有时成为一个包袱,只是养家糊口的手段而已。

话又说回来,将小故事作为素材来撰写教科书,这样的想法在凡人的脑中恐怕是无法闪现的吧。更何况其具体操作也非常人所能胜任。如果对教育没有相当的热忱,即便是博士也不可能产生这种独创的想法吧。这里我们能感受到博士对学生们的无限热爱。话虽如此,仅凭这份心情,优秀的作品仍然无法产生。优秀的作品需要坚实的知识、技术和人才。正因为博士有着对日语和日本文学的造诣以及作为作家的才能,才能做到这一点。博士那如夜空中繁星般闪烁的、而且是用日语创作的文学作品,一年一年地不断问世。也许是机缘巧遇,优秀之人总能与优秀的人邂逅。博士得力于优秀的共同执笔者。没有这些人,这本书也许不能如此顺利地完成。

“知己知彼,百战不殆”。从海峡这边看去,博士诚然令人敬畏。一手捧着这套几乎可以称为奇迹的、着实下了一番工夫的教科书,在时而捧腹笑倒间,珍惜点滴光阴学习日本语和文化的人们,就会在不知不觉、自然而然之中,获取悉知至我们日本社会最深奥层面的卓越能力吧。

(吴琴译)

基本语汇词性分类说明

本书词性分类,参照了辽宁人民出版社 1997 年版《新日汉辞典》、商务印书馆 1995 年版《现代日汉大辞典》、光生馆 1982 年《详解日中辞典》、小学馆 1990 年版《日中辞典》、三省堂 2004 年版《新明解国语词典》、三省堂 2002 年《大辞林》和岩波书店 2002 年版《广辞苑》。

1. 词性用日本文字表示
2. 一个词兼有两种以上词性时,中间用“·”隔开
3. 空一格表示“成语·熟语·惯用语”
4. (佛)——佛教
5. (数)——数学
6. (文)——文语,古典日语
7. (喻)——比喻
8. (俗)——俗语
9. (医)——医学
10. (心)——心理

〔名〕名词

〔代〕代名词

〔形〕形容词

〔形動夕十〕形容动词

〔感〕感叹词

〔副〕副词

〔副助〕副助词

〔接助〕接续助词

〔終助〕终助词

〔連体〕连体词

〔接〕接续词

〔接頭〕接头语

〔接尾〕接尾语

〔連語〕连语词组

〔複〕复合词、复合词组或习惯搭配及其汉译

〔名十〕名词接「な」作形容动词

〔五〕五段活用动词

〔上一〕上一段活用动词

〔下一〕下一段活用动词

* 由于排版系统的原因,本书中个别日文汉字及偏旁如“解”、“花”、“直”、“纒”等不能正确输出,特此说明。

〔サ〕サ行变格活用动词

〔自〕自动词

〔他〕他动词

〔合〕合成词

〔派〕派生词

〔漢造〕汉语造语

目 次

序	胡振平
序	中村宏
第1課 風邪	1
第2課 風邪の直し方	17
第3課 メール	29
第4課 言い間違い	41
第5課 電話のかけ方(一)	55
第6課 電話のかけ方(二)	67
第7課 井戸端会議	80
第8課 保護者会の雑談	94
第9課 職場の出来事	107
第10課 語呂合わせ	123
第11課 ユーモア	136
第12課 寸劇	150
第13課 雑談	167
第14課 病院の話	182
第15課 文章をディスカッションしよう(一)	197
第16課 文章をディスカッションしよう(二)	217
附 録 発音の練習	234

第1課 風 邪

日本民间认为,感冒要传给他人自己才能好。当然,这种说法带有玩笑性质,不足为信。不过,感冒时吃带「ん」的蔬菜的确有其疗效,不妨一试。

加藤患了感冒,找医学系的高木为她诊断,引出高木的一番奇谈怪论以及民间治疗的一些偏方。加藤比高木低两届,算是高木的学妹,说话时常体和敬体混用,表现出一定的恭敬。高木因为是学长,又是男性,看来跟加藤也比较熟悉,所以使用的全是常体。

会 話

加藤(女性、大学二年生)

高木(男性、大学四年生)

加藤 この頃ずっと風邪気味なのよ。もう頭がボーッとして、目がチクチク、喉がヒリヒリ、鼻水ズルズル、体はフラフラ。もう、たままないの。

高木 それはいけないな。風邪は万病のもとして言うから、気をつけないと。

加藤 そう言えば、高木さん、医学部でしたよね。その道の専門じゃないですか？ 少し診てくれませんか。

高木 内科は専門じゃない。まだ学生だし。でも、貧乏学生のおしきで、話ぐらいなら診て上げられるけど。あ、でも、医師免許がないから処方箋も書けないんで、薬も出せないよ。

基本語彙

1. 気味(ぎみ)〔接尾〕(直接接体言、动词连用形之后)有点……,有……趋势
2. ヒリヒリ〔副・サ自〕刺痛的样子;辣得慌
3. ズルズル〔副・サ自〕拖拉着,搭拉着;溜滑;拖延,拖拖拉拉
4. フラフラ〔副・サ自・形動ダナ〕蹒跚,晃荡;信步而行,溜达;(无工作)闲着;(病情)拖长
5. 万病(まんびょう)〔名〕百病,各种疾病
6. よしみ(好)〔名〕交情,关系,姻缘,友情,友谊;亲密交往
7. 処方箋(しょうほうせん)〔名〕(医)处方,药方